

学校だより



菜の花

川崎市立長沢小学校

令和6年9月30日

10月号

本を読もう

校長 中西 憲子



長沢小HP
(学年だより)

暑かった夏もようやく終わりを迎え、秋の気配を感じるようになりました。気候の変化に伴い、「秋」が短くなったように感じます。過ごしやすく実り豊かな「秋」を大切に楽しみたいと思っています。

先日発表された文化庁の「国語に関する世論調査」で「月に1冊も本を読まない人が6割を超える」という報道がありました。スマートフォン等の普及に伴い、利用できる情報源が多様化している今、本を読む時間が他の手段にとって替わっていることは身近に感じます。長沢小学校では、子どもたちに読書の習慣をつけるため、月曜日の朝に全校で「朝読書」に取り組んでいます。私はニュースを見て益々、子どもたちが本を読む習慣づくりを大切にしていきたいと考えています。

「本を読むことは、なぜ大切なのか」と聞かれたら、私は次の五つを答えます。一つ目は、「学びに向かう力のもとになる」からです。学ぶためには、文字を読んだり、書いたりする力が必須です。生きることは学ぶこと、本を読むことは、生きる力の土台とも言えます。二つ目は、「言葉を使いこなす力のもとになる」からです。私たちは、自分もっている語彙を通じて物事を認識し、思考したり表現したりします。本を読むことで語彙力が伸びれば、思考の世界が広がります。三つめは、「人との関係づくりのもとになる」からです。EQ（心の知能指数）という指標があります。自分の感情を把握してコントロールできるだけでなく、周囲の人の気持ちを理解して適切に接することができる力です。「EQが高い人は、文学作品をたくさん読んでいる」という報告もあるそうです。四つ目は、「自分の考えを更新する力のもとになる」からです。本との出会いは、多様な考え方や価値観との出会いでもあります。自分と異なる考えを取り入れて柔軟に自分を変えていくことは、自分を成長させていくことにつながります。そして、五つ目。何よりも子どもたちに伝えたいことは、本を読むことの「楽しさ」です。自分ではできないことも行かれないところも、本の中でなら体験することができます。本を夢中になって読んでいると、とても時間がたっていることがあります。本を読むことが「楽しい」と体感し、読書を習慣にすることは、人生を豊かにする「特技」の一つだと私は思っています。

では、どうしたら子どもたちに本を読む習慣をつけることができるでしょうか。読書家は大人にも子どもにもたくさんいますが、本を好きになったきっかけは、きっと人それぞれでしょう。私が本を好きになったきっかけは、一冊の本との出会い、小学校3年生のときに買ってもらった「ロビンソン・クルーソー」というサバイバル冒険物語です。「同じ値段なら厚い方が得だ」と考えて選びました。そのことを得意げに母に話すととてもがっかりされ、「自分で選んだのだからとにかく読み切りなさい」と言われました。本当に厚く、漢字も難しく、国語辞典をひきながら、後悔しながら意地で読み続けていたのですが、途中から物語に引き込まれ、夢中になって読むことができました。残りのページがわずかになってくるのを寂しくさえ思いました。そして、読み終わったときの達成感と言ったら、半世紀たった今でもはつきりとおぼえているほどです。「途中で投げ出す」と思っていた母が、ほめてくれたこともよく覚えています。言ってみれば「たまたま」好きになったようなものですが、その経験は本を読む習慣につながり、私の人生を幾度も助け、慰め、豊かにしてくれました。

お子さんはどんなことがきっかけで本を好きになったのでしょうか、また、これから好きになっていくのでしょうか。私たち大人は、子どもたちが本を好きになる「種まき」をしていきたいものです。お忙しい毎日だと思いますが、「読書の秋」に、保護者の皆さんにも本を手取る時間や子どもたちと「子どもの頃に出会った本」について語り合う時間があることを願っています。